

2023 年近畿地区青少年教育施設協議会 専門研修会

学校教育と体験活動を結び付けた新しいプログラム展開を考える

「自然体験活動におけるデジタル技術の活用の進展 各教科の関連を踏まえた開発」

公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会

尼崎市立美方高原自然の家 西垣幸造

共同開発研究：関西学院大学甲斐知彦

【経緯】

社会の DX 時代、学校における GIGA スクール施策が進み、青少年を取り巻く環境はますますデジタル技術が浸透し、鉛筆やノートのようにデジタル端末を使いこなす状況になってきている。

兵庫県では小学 5 年生の 4 泊 5 日の集団宿泊活動である自然学校事業を実施しており、尼崎市内の市立小学校の事業を受け入れる美方高原自然の家は、未来志向の教育の推進としてデジタル技術を活用した野外活動と各教科（社会科、英語など）の関連を踏まえた開発の必要性に着目しました。

【目的】

デジタル技術を用いた自然体験活動における教科との関連を高めた活動の開発

- ・ 指導者+情報端末で、指導者支援や自然体験活動がより豊かになることを目指す。

【実践例】

2022 年度タブレットを用いた AR ネイチャーラリーにおける社会科との関連

- ・ 尼崎市内の小学 5 年生 4 校

2022 年度タブレットを用いた AR ネイチャーラリー英語バージョンにおける英語との関連

- ・ 美方高原星空フェス 家族グループ 2 組

AR ネイチャーラリー（タブレットを使用して散策し、ポイントでネイチャーゲーム系の課題が出される）

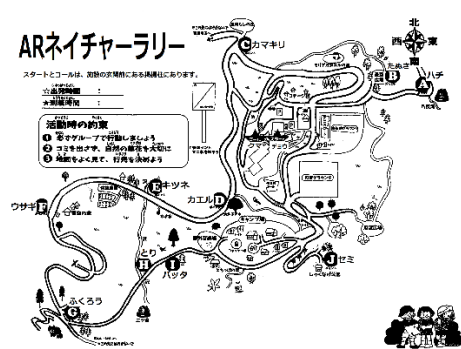
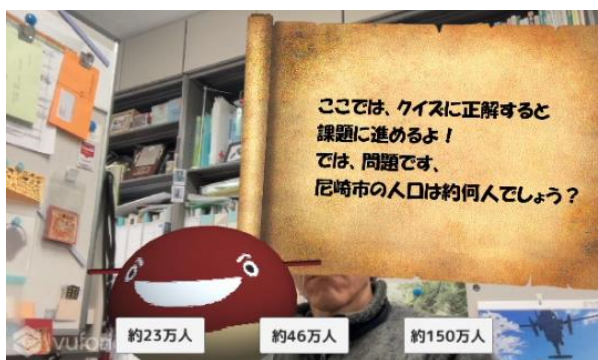
- ・ 社会科との関連

尼崎市の市のマーク、人口、5 年生の人口を答える発問の後に、ネイチャーゲーム系の課題が現れる

- ・ 英語との関連 課題について表示と音声すべて英語で出される。

小学 5 年生が理解できる程度の英語にするため、小学校英語担当教員との開発

音声は海外での在住や英語指導の経験者を起用した。



【今後にむけて展開】

以下の5点の展開を考えています。

- ・教科の課題を増やすこと。
- ・デジタル技術とリアルな体験のベストミックスの探求
- ・指導者支援のためのデジタル技術活用の調査研究
- ・指導力向上のためのデジタル技術活用の調査研究
- ・デジタル技術活用についての実践事例や調査研究成果の情報発信と連携



【メモ】